



野比だより

横須賀市立野比中学校

平成31年(2019年)1月18日(金) NO. 58

保護者の方と一緒に読みましょう

志望理由何度も唱えノックする心臓の音が聞こえていますか

ためになるちょっとしたお話・・・

いよいよ3年生は、私立推薦受験の出願が始まりました。本格的な受験シーズンとなるわけです。今の入試制度では、「面接」は公立・私立に関わらず全員が経験します。その一番の目的は、**意欲**と**姿勢**だと先生は思っています。すでに面接練習として「校長面接」が始まっていますが、多くの人にとっては**緊張**します。

でも緊張するのは当たり前のことです。「**自分のことをよく見てもらいたい→しっかりと伝えることができるか…失敗しないか**」と緊張してしまうのです。それは中学生も、高校生も…、大人(就職試験)も同じです。みなさんは、相手の方との意思疎通(=コミュニケーション)には、「言葉(会話)」がとても重要と思いますよね。しかし、驚くべき事実があるのです。

それは、「**言葉は7%しか伝えない**」ということです。これは、アメリカの心理学者アルバート・マレービアン博士が発表しています。なんと人が他人から受け取る情報の割合は、実験から下記のような結果が出されています。

しかし、日常の生活を考えると、この結果は納得いくものではないでしょうか。一番わかりやすいのが「**頑張ります!**」という言葉と表情。そして、「**ごめんなさい**」って言うときの表情…じゃないでしょうか。

こう考えると、面接も大変楽になりませんか。誰でも面接練習にも力を入れ、面接シート等にした内容を暗記しようとしても、自分の体験(中学校時代に頑張ったこと)や考え(志願の動機)を率直に伝えれば良い。

- ① 顔の表情 … 55%
- ② 声の質(高低)・身だしなみ
・大きさ・テンポ・仕草 … 38%
- ③ 話す言葉の内容 … 7%

だから、面接練習の時、毎回の回答内容が若干違ってしまふんだよね〜」…は、全く問題ないのです。

それよりも、「笑顔」「思いを伝えたい!」って真剣な表情や、身振り手振りで一生懸命伝えようとする事の方が重要なのです。
ポイントは**表情(笑顔と真剣さ)**なのです!!!!

そして身だしなみは、ノックをして最初に面接官が目にするものなので、第一印象を左右します。制服にはブラシをかけ、汚れは事前(クリーニングまでは不必要)に取っておきましょう。第一ボタンやホックはしっかりと締め、面接のときは寝癖にも注意してくださいね。朝の登校で見守っていると、凄い人が時々いますよ(笑)

これは、1年生の職場体験でも活かせる内容です。何か仕事を頼まれたとき、「大きな声の返事」「やる気のある顔の表情」「姿勢」さえできれば、君たちの意欲は必ず伝わります。

受験票の管理は各自です。また、受験番号は覚えておきましょう。

大切だからと言って、特別な場所にしまうのは避けるべきでしょう。カバンの中に入れてそのままするのは厳禁です。破れたり、しわくちゃになったり…、間違えて捨ててしまったり…が今までの先輩たちの中にいました。クリアケース等に入れて、**家族がいつも目にする場所**が良いと思います。先生は冷蔵庫に磁石で留めておきましたが…

下の新聞記事を読んでみて下さい。「5, 7, 5, 7, 7」のわずか31文字に切り取られた情景。すべて十代の若者の作品ですが、先生にはとても太刀打ちできない瑞々しい感性が光りますね。

題名でも使いましたが、「志望理由何度も唱えノックする心臓の音が聞こえていますか」は、今の3年生も共感する内容ではないでしょうか。そして3年生の中には、4月からは野比を離れて生活する人もいます。横須賀地区をから出て進学する人もますね。

そしてみなさんへお願い。「**伝えたい言葉はいつも、スタンプでどこかに消えた私の言葉**」ですが、仲間との別れ、先輩との別れ…がやってきます。

それ以外にも、友達や家族とは、伝えたい言葉を伝えるべき時に、自分の言葉で伝えてほしいと願っています。面接の時は、話す言葉の内容は7%しか伝わりませんが、人と人とがわかり合うためには、何パーセントか分かりませんが、言葉が大きなウエイトを占めるのです。

天声人語

思いを寄せる人がいるだけで世界は変わる。新潟の高校2年生、菅沼麻沙さんが下校時を詠んだ。〈月曜は19時半の越後線1号車には君が居るから〉。岩手の高2、菅原凪さんの描く切なさ。誰でも覚えがあるだろう。〈すぐにそこに君がいるのに喋れない心がうるさい破裂しそうだ〉▼毎年この時期、「現代学生百人一首」が東洋大学から届く。32回目の今回は、5万7千首超の応募があった。切り取られた瞬間が迫ってくる▼〈志望理由何度も唱えノックする心臓の音聞こえてますか〉高3藤谷まりも。面接の直前だろうか。その緊張に声援を送りたくなる。〈溶接で火花を散らす鉄を見て幻想的だと感じる実習〉高2田畑裕斗。目を奪われる美はどこにでもある▼〈十八歳二年もはやい選挙権ふと足止める駅前の声〉高3逸見侑可。大人への階段を上っていく日々がある。それはどきに寂しさを伴う。〈朝起きるただそれだけではしゃぐ犬はいつから変わったんだろう〉中1塚田あこ▼友達つきあいスマホが影を落とす。スタンプと呼ばれるイラストが言語のように飛び交う。〈伝えたい言葉はいつもスタンプでどこかに消えた私の言葉〉高1切刀菜柚▼長く過した巣を離れる時も、やがて訪れる。〈「地元出る。」決意を伝えたその時の涙溢れた母の表情〉高3佐藤優花。いつでも母は見守っている。早くも親元を離れ、詠まれた歌である。〈ありがとうLINEではなく電話する母から届いた荷物眺めて〉高1大田洋輔。

